



あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。

二人はとっても意地悪で他人の悲しんでいるところや苦しんでいるところを見ると心から喜ぶ人たちでした。

ある時小さな男の子が自分の小さな庭に、バラとユリの花を植えました。バラは聖母マリアへユリは聖ヨゼフへの捧げものでした。しばらくして、いじわるなおじいさんとおばあさんがやってきて、バラとユリを植えた庭を踏みにじり、大きな穴を掘って生ごみを捨て肥溜めにしてしまいました。男の子の小さな心はとても傷つき、目からは小さな涙を流しました。おじいさんとおばあさんはその男の子を見て心の底から喜びました。その後、おじいさんはボケて自分が誰だか分からなくなり、おばあさんはがりがりに痩せて骨と皮の骸骨になってしまいました。そして、二人は、死んで、塵に帰りました。

その後、その肥溜めからは、真っ赤なバラの花と真っ白なユリの花が咲き、少年は哀れなおじいさんとおばあさんが天国に行けるように、また、聖母マリアと聖ヨゼフに真っ赤なバラと真っ白なユリをささげました。